

児童発達支援事業所における自己評価結果(公表)

公表: 2024年3月1日

事業所名 総合支援型デイふらっと

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○		プレイルームと学習室を分けている	2023年10月に移転し、広くなった
	2	職員の配置数は適切である	○		補助の為に非常勤職員を配置している	
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	○		イラスト、絵カードの使用、活動スペースの色分け、音で知らせる等、わかりやすくしている。	トイレに手すりを設置している
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	○		また、「座ってする」場所と「体を動かす」場所にわかれている	
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○			パート職員は参加できていないできるだけ全体に伝えるようにしている
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○		日頃からコミュニケーションを密にとり、ニーズの把握に努めている	保護者へのアンケートを行い、サービス提供時間の適正化を行い、土曜営業を開始した
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○		評価表の集計結果をホームページに掲載	ホームページにて掲載しているが、保護者の認知度が低いいため、会報でもお知らせする
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		○		外部評価は行っていない
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		内部研修の他、定期的に外部の研修に参加	強度行動障害児に対応できるように研修に参加した
適切な支援の提供	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	○		保護者のニーズのみに偏らないように留意している	
	11	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○		保護者・児童との面談と行動観察により行っている	大阪市「利用者調査票Ⅰ・Ⅱ」「フェイスシート」を利用。アプリの活用
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	○		主に発達支援に重点を置いて、個別・集団・運動・創作・学習をメインに児童に必要な支援を行っている	
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	○			
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	○		児童の課題に合わせた活動の立案を行っている	
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		日課の他、レクリエーションや季節行事を実施	職員の意見、保護者のニーズだけでなく、子どもから意見を聞き、活動に反映させている
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて児童発達支援計画を作成している	○			

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		参加できない職員との情報共有、記録保持の為、支援ノート、日報を活用	非常勤職員は勤務時間が異なるため、個別に情報を共有している
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○		参加できない職員との情報共有、記録保持の為、支援ノート、日報を活用	非常勤職員は勤務時間が異なるため、翌日または次の勤務日に情報を共有している
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		情報共有、記録保持の為、日報の作成と支援ノートを活用	
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	○		概ね3か月に1回モニタリングを行っている	
関係機関や保護者との連携	21	障がい児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○		児発管・児童指導員主任が参加し、状況を報告・共有している	担当者会議の他、電話やオンラインなどで担当者とのコミュニケーションをとっている
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	○			
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障がい福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている				非該当
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている				非該当
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚園部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○		お迎えの際などに状況を伝え合っている	保護者のニーズや園の体制などにより、繋がりが辛いことがある
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○		体制を整えている	
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障がい者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○		講演会に参加している	他事業所の職員と交流会を行った
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	○		園との交流は無い。近隣の公園でその場に居る子どもと交流している	
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	○		自立支援協議会 JOTO児童部会に参加	
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○		相談時間、手段など幅広く対応している	
	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	○		家庭内での困りごとの相談や、対応の仕方の提案など行っている	講演会などの外部研修の案内もしている
	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○		状況に応じて書面にはルビをふり、音声読上げ対応もしている	
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	○		面談等で説明を行っている	

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
保護者への説明責任等	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○		必要時に即対応出来るように、対面だけでなく電話やメール、ラインなどを活用している	保護者が「どこまで相談していいのか」と迷っているように感じることもあり、面談の機会を増やしていきたい
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	○		学期ごとに保護者交流会や季節のイベントを実施し、交流の機会を設けている	コロナ禍により長らく中止していたが、ようやく再開できた
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	○		保護者には対面だけでなく電話やメール、ラインなどを活用して体制を整えている	
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○		長期休暇前は行事予定等のお知らせを配布、定期的にホームページの更新をしている	3か月ごとをめぐりに会報を発行している
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	○		書類は鍵付き書棚で管理し、職員研修を行っている	
	39	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○		書面にはルビをふり、音声読上げ対応もしている	
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	○		夏休みに事業所でお祭りを開催、土日などに内覧会を開催している	
非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	○		児童と職員で主に地震、火災を想定した避難訓練を行っている 緊急時の連絡体制としてラインを登録	移転後の避難訓練回数が少なく、職員間の連携が不十分などがあるため、新たな避難体制を構築中
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○		避難手順、避難所までのルートを書面化している	非常災害時に保護者への引き渡し訓練を実施予定
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	○		服薬状況に変化があれば、都度確認している	
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている		○	保護者よりアレルギー検査の結果を伝えてもらっている	
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○		ささいなことでも記録をとり、支援ノートと共に活用している	
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○		職員会議や研修で定期的に虐待予防研修を行っている	
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	○		身体拘束等適正化の指針を作成している	

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は事業所全体で行った自己評価です。